

科目	環境経営学 (Environmentaru Economics)		
担当教員	玉井 昌宏		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	工学複合プログラム	D-1(100%)	JABEE基準I(1) (b)
授業の概要と方針	公共事業の効率性やその環境に及ぼす影響について適切に評価し、円滑な合意形成を達成するために、経済評価の重要性が増している。本講義では、公共事業の現状と環境の経済評価の重要性を理解させることから出発して、経済学的な考え方、公共事業や環境評価の基礎となるミクロ経済学の基礎、環境経済学の基礎について講義する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【D-1】公共土木事業の現状と方向性、経済評価の重要性が理解できる。		到達目標1, 2, 3について、中間試験で評価する。
2	【D-1】経済学の基本的な考え方、基礎的事項について、習得する。		到達目標4, 5について、定期試験で評価する。
3	【D-1】ミクロ経済学の基礎事項について習得できる		公共事業を取り巻く社会情勢の変化、なぜ、経済評価の重要性が強調される背景について理解できているかを中間試験で評価する
4	【D-1】環境経済学の基礎事項について習得できる		経済学とは何か、「経済学的な考え方」、「希少性の意味」等を理解する。需要曲線、供給曲線、需給バランス等について理解できているかを中間試験で評価する。
5	【D-1】環境の価値を理解し、環境の経済評価方法を用いることができる。		効用、効用関数、需要の決定等について理解できているかを中間試験で評価する。
6	【D-1】環境経済学の基礎事項について習得できる		到達目標4について、外部不経済、社会的費用、環境勘定など環境経済学における基本的な概念、基本事項について理解できているかを定期試験で評価する。
7	【D-1】環境の価値を理解し、環境の経済評価方法を用いることができる。		到達目標5について、環境の価値の内容と評価方法について理解できているかを定期試験、仮想データを用いた演習で理解できているかを評価する
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験100%として評価する。中間試験、定期試験の成績平均点の100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	配付プリント		
参考書	スティグリッツ, 入門経済学, 東洋経済 西村和雄, 現代経済学入門ミクロ経済学, 岩波書店 植田和弘, 現代経済学入門環境経済学, 岩波書店		
関連科目	経済学, 数学		
履修上の注意事項	本講義には、教科書がないので、なるべく参考書に目を通しておくこと。倫理学や哲学、経済学などに関連する面もあるので理解しておくことよい		

